

片側人工膝関節置換術を受けられる患者様

患者様用

患者様氏名

受持医：

受持看護師：

受持理学療法士：

月日（日時）				～	～	～	～	～
経過（病日等）	入院日	手術当日	手術後1日目	手術後2～3日目	手術後4～7日目	手術後8～14日目	手術後15～18日目	手術後19日目
達成目標	◆治療準備が整う ◆退院基準を理解し同意する ◆入院、転院、手術の必要性を患者・家族が理解し同意する	◆治療の準備が整う ◆手術、麻酔の侵襲による換気不全がなく、循環動態が安定している ◆深部静脈血栓症の兆候がない ◆疼痛コントロールができる	◆神経障害、循環障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆車椅子にて移動できる ◆深部静脈血栓の徴候がない	◆神経障害、循環障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆歩行器歩行ができる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆膝関節屈曲90度が可能である	◆神経障害、循環障害がない ◆疼痛がコントロールできる ◆歩行器歩行ができる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆膝関節屈曲90度が可能である ◆感染兆候がない	【転院基準】 ◆疼痛がコントロールできる ◆一本杖歩行ができる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆自力で膝関節が100～120度屈曲可能である	◆疼痛がコントロールできる ◆一本杖歩行ができる ◆深部静脈血栓の徴候がない ◆自力で膝関節が100～120度屈曲可能である ◆床からの立ち上がり動作ができる ◆階段昇降ができる ◆退院後の訓練ができる	
治療・薬剤 (点滴・内服)	持参されたお薬の確認をします	朝の内服薬は看護師が持ってきます 手術前に抗菌薬の点滴をします（手術が午後の場合、午前中に500mlの点滴があります） 手術後500mlの点滴が3本あります タ方より痛み止めの内服が開始となります 手術中より股関節のあたりに痛み止めのチューブが入ってきます	朝夕、抗菌薬の点滴があります 血の塊ができにくいように血液をサラサラにする内服薬が開始されます（1週間で終了となります）					
処置	手術する部位を間違わないように印を付けます 弾性ストッキングのサイズを測ります	手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します 術後安静が必要なため、血栓ができるように足にポンプを装着します	術後、足に装着していたポンプを取り外します 弾性ストッキングは歩行できるようになるまで装着します	術後2日目、痛み止めの注射が抜けます	術後4日目に包帯がとれます 医師より手術創のチェックがあります（以降は適宜チェックしていきます）			
検査	必要時、採血があります		血液検査があります		術後7日目に血液検査とエックス線撮影があります			
活動・安静度	制限はありません	手術後3時間はベッド上安静です その後体を起こせます	術後、制限はありません 車椅子に移動できます（看護師が介助します）	歩行器訓練をします		1本杖歩行訓練をします		
食事	夕食まで食事ができます	朝昼は絶食です 手術後3時間たちましたら、看護師がお腹の動きを確認し飲水できます	通常の食事になります					
清潔	入浴をしていただきます		両膝から下の包帯がとれるまでは看護師が身体を拭きます		包帯がとれましたらシャワー浴が可能となります			
排泄	排便の確認をします	手術後は、尿の管が入っています	尿の管が抜け、介助にてトイレが行けます					
患者様及びご家族への説明生活指導リハビリ栄養指導服薬指導	入院生活と手術前の説明をします 麻酔科医師の診察があります 手術室看護師が訪問します 薬剤師が訪問し、薬について説明があります 入院費に関するご心配がありましたら、総合窓口6番窓口へご相談ください	手術後は、主治医より手術の結果と今後の方針について説明します	理学療法士の介入にてリハビリを始めます			リハビリの進行に応じて転院調整を始めます 		退院後の生活について看護師や理学療法士から説明があります

注)入院期間については現時点で予想される期間です。

国立病院機構熊本医療センター整形外科 平成29年3月改訂